昭和八年九月十六日史蹟めぐり資料

一、大分市史蹟めぐり

清岸院

聖徳寺

新地区

誠心而郷土研究会

第五回　史跡めぐり案内

一、日時　四月十六日　午前十時半

一、集合　越谷駅集合

コース

越谷～松伏下車～

新方・聖徳寺～

清浄院～

越谷

一、会費　三百円　交通費他

○昼食は各自持参ください

目次

見学資料

川崎里聖徳寺略縁起

住職　稲葉嶺孝氏述……二頁

清浄院

第広山南蓮寺縁起……五頁

中世　〃　四

近世　〃

近代

新編武蔵風土記稿　才十巻から……四頁

越谷市の史跡と伝説から……四頁

大松清浄院

第広山浄土寺清浄院一山了史年表　六頁

以上

川崎 聖徳寺略縁起

住職 稲葉嶺孝氏

聖徳太子華讃の声、響りたる道路 沿線行楽案内図の中央に、聖徳寺と記載してある後者は「太子山聖徳寺」と号し、太子講発祥の霊場でもある。

慶長の頃 開山源翁和尚、当時市内の武蔵野に聖徳太子の遺徳を弘く民衆に宣揚すると共に、諸人を納祭して太子講を始ばしめ、現在この地を選び阿弥陀堂に続いて太子堂、地蔵堂を建立した。

註 明治維新の廃仏毀釈の際、太子堂は其の災を蒙り太子の本像は、現に阿弥陀堂に安置さる。

歴代又此の講を継承し念仏弘通の傍ら、太子華讃、地蔵菩の利益を布教して今日に及んでいるとのことです。昔って河内国磯長太子御廟所より我が国内に太子堂の由緒は幾多あるけれども、太子山聖徳寺の号を持つものは該寺のみだということです。

太子山聖徳寺について今少し申上げますと、当寺の東約五〇米の所に古刹根川の清流が南へゆるやかに流れ松伏領村のところで大きく東に張り出して居る。此の辺り川巾二〇〇米、広い河畔は格別、この張り出した流の眺に水立に囲まれた太子山聖徳寺がある。

最近は越谷市に編入され、寺の所在地も越谷市川崎となった。寺は浄土宗、古い記録もある。移住人へ領つ小さい十七条憲法についている縁起を見ると徳川の初期慶長年間に武蔵源氏という坊さんが大和国から太子像を奉じて此の地に来て附近の村々に太子信仰をひろめ、太子講を設け、現在この寺を建て開山になったとあります。

庫裡の前に三間程の大鐘楼があり、時代を物語っております。今の本堂の本堂も当時のものですが、大正の大震災の後修繕したものだと云われております。

現在太子堂はありませんが 太子像は本堂の阿弥陀如来のわきに厨子に納めてあります。木造で高さ一尺二〇三寸・彩色の立像で両手で持っておられるものは破損しているが、どうも柄香炉ではないようであります。おしいことに何時頃か甚だまずい塗替をやっている。本堂の左前方に太子堂があったそうで、それを心がけの良くない住職の時代に売って呑んでしまったとのことであります。跡地にする目的で買った其の家は、頼んで譲ってもらったその晩に火事にあったとの事であります。それは明治になってからだそうです。

この太子様は近郷の信仰を集めて、毎年五月五日には土地の氏人衆が集まってお祭りをしております。

話しによると東京方面にも聖徳講とか、聖祥講などが

あつて、毎年バスを仕立てて参詣に参ります。何れも取入衆が講の中心となつているようであります。

昨年は鳩山元首相代理が当山に参堂なされ「聖徳」の扁額が献納され、裏には、吉田首相で「聖徳」の二字を墨痕鮮かに揮毫され、新しく掲げられてあります。信者の間から堂殿に移どつた太子堂を作つたらうという話までも出ているそうです。

「塩地蔵尊」

魔内の入口に浮き彫りの地蔵尊が　祭られてあります。これが霊験あらたかな塩地蔵尊と伝えられております。

附記　伝説

川崎の塩地蔵尊の伝説

ひどく磨滅した木片一枚が、塩地蔵来山縁起としてその由来を物語つているようです。これによると、太子が守屋を誅されに折、遺骸から地蔵尊のダラニが現われた。

太子は守屋が、実は地蔵尊の化身であつたことを知られ、この地蔵尊を作られて供養になつたとのことです。

そして塩を供えると願をきき届けると言うのです。

たかと伝えられております。それを近郷近在はもとより、江戸神田からわざわざお願いに参られる方々もないのであります。

これらの方々の「十人願成就」の願が奉納されてありました。尚北高野郡大川戸村の竹某氏が、安政二年の十月吉日とあるから昔からの、なさけ深い地蔵であるかがわかると思います。

塩地蔵の塩について

この塩の塩は昔話のことであつて「塩塩」ではありません。いつも入浴塩になると　石から塩分が出て地蔵尊全面から出て来るので、何等とはなしに、この名が出たのだときいております。

清浄院

第七調査の手引きより

中世　東大寺古文書、保存板碑及び地形等

近世　寺領関係・本末寺院関係・寺請関係・過去帳等諸書類及び墓所等（中興の開基といわれる珍海僧の院殿法士号墓石がある）

杉浦家については「関東郡代伊奈忠尊の改易と家臣の動向」　地方史研究九十九号に所載

近世　神仏分離令関係　（本尊薬師如来）

新編武蔵風土記稿

（　　もから）

○　大枝村は、江戸より七里　戸数十八、村の四隣、東は大杉村、西北は稲戸村、東は古利根川を隔て、葛飾郡大川戸村なり。当村も古より御料所なりしを寛政年中、大岡出雲守に賜い　今主殿正の領分なり

用水、検地は前村に同じ

○　古利根川　東北を流る。巾八十間

○　春取社　村の鎮守　日目村　華光院の持

末　社　稲荷社

○　清浄院　浄土宗　芝増上寺末　栄広山

と号す。寺領十二石の御朱印は慶安元年九月十七日賜ふ。本尊阿弥陀を安ず。立像にて長三尺許、恵心の作といえり、開山堅真、寛慶元年七月廿八日　示寂す。

当寺の御少許を隔て開山塚と云あり、そこより掘出せし古碑に嘉祿元年の文字見えたり。見起立の人の墓ならんと云

○　鐘　楼　寛永七年鋳造の鐘を掛く

○　春取社　稲荷社　俗頭　室地蔵（開基地蔵を安）

○　相心寺　清浄院末　谷正山と号す。本尊阿弥陀を安ず。開山　善桃、寛文元年十二月四日寂す

越谷市の史跡と伝説から

○　大枝　清浄院

浄土宗　栄広山清浄院　開基は僧[illegible]、本尊阿弥陀如来は恵心僧都の作と云う。この寺は今を去る事五百有余年前の寛慶の昔創[illegible]、新方領の起源を探究するに唯一の霊場なり。この山は此の地を定めて里人に慈悲弘通の傍ら当[illegible]の古利根川の氾濫と水害[illegible]を慮り、寺、院主寺と称する根道を兼き、又歴代の僧、[illegible]郷人のために大教福利に

慶を用い慶安二年（三一二年前）伊昭和　年には寺領十二石の朱印を賜いしと聞く。不幸にも開祖の中期にさしもの大伽藍は宝物等全く灰燼に帰し、昔日の面影はなく全く廃ぴ滅び感念です。ただ境内の竹林中に現存する開山塔を掘出したる折　たまたま嘉永元年と彫みたる青吉陣鉢出現せり。

是れが建立の人ではないかと申されて居ります。尚本寺境内に　藤原妻子の墓を（大阪城落城の際武将と謂く）祀る小塚がある。

大正の世紀の之を慕ふ四隣の里人は、藤原墓神と崇拝し、参詣人が雲集いたし門前　市をなしたる時がありました。

栄広山由緒著聞書概略

永享十二年（一四四〇）将軍足利義教は関東公方足利持氏を攻める。持氏自害後その遺児春王、安王は結城氏朝と共に挙兵するが破れる。その折結城軍の中に、野本大炊丞秀俊と云う者があり、その妻は一子松寿丸を伴い、乳母と共に妻の兄下総国笠師の大川戸左衛門の館に落ちのびる。松寿の手がのびて三人は潮に被身し、三頭一尾の大蛇と化す。この時

潮辺は人が寄りつかず荒廃する。

文安四年春（一四四七）

栄広山住職賢真上人は大蛇の願いを聞いて、昼夜と、日の大念仏供養を行ったが、一山鳴動して一夜のうちに潮が岡に変った。これが蛇塚とも潮山塚とも呼ばれるものである。

栄広山を天ケ村の潮壁と呼ぶ

その後は、文亀年間（一五〇一）新方領主向畑城の新方次郎頼春と武州騎西城八条領主八条兵衛尉とが争乱を起し、文亀四年正月、小林概で対戦する。この時頼春は戦死、新方城は八条軍の手中に入って向畑城は廃城三郎左衛門の居城になる。

なお、栄広山住職高賢上人は、新方頼春の師であったことから法滅脱わ焼打ちされ、高賢上人は岩槻の渡江城へ逃がれる。

永正二十七年（一三二〇）向畑城奪回

高賢は新方時代の武士や栄広山衆徒と共に兵を挙げ向畑城を奪回する。八条軍は大軍を別府に集める。先陣は青柳外記左衛門　小作田庫人・柿ノ木小藤・二陣は大塚源飛軍守、西脇左近右衛門、領家八郎・

両分寺藤兵部、後藤は八条兵部別

一方　新方勇は

一山の豪族、新方諸代の武士、それに淀江の加勇と共に　永正十八年正月六日　別所を急襲　且諸城に相陣の八条勇大曽根上野介に背後をつかれて苦戦するが、大沢に来ていた安国・浄願二山の豪族が救援し新方軍は大勝する。

高勇は諸代の武士の旧領を安堵し功ある者に褒を与えるなど南新方の地は自然栄広山の領地のようになり、人々は六ヶ村の親堂というようになる。

北条氏康　栄広山の

由緒を特にたずねる。

天文年中（一五三二）北条氏康は武蔵下総を平定するが栄広山の由緒を特に訪ねる。高勇これに答える氏康は承諾して六ヶ村領地の面倒を与える。

天正十八年秀吉栄広山の由緒を尋ねる。（天正十八年秋九月）

一五九〇年秀吉奥州征伐の途次岩槻に宿り栄広山の由緒をたずねる。高勇上人の事蹟を調べたが現在処に至ってはすでに一所懸命の土地であると且認められないとして領地を取上げたが、その由緒を尋ず為六ヶ村の内で十二石を領有すべしとされた。

＊補者　武州用土主藤田新左衛門平信吉天文廿二年北条氏邦に属し用土新左衛門と唱える。

嘉永四年川上氏の写本に依る。

（市史へんさん室　本間清利氏）

栄広山浄土寺清浮院一山歴史年表

（上の年次は昭和四〇年表迄算出　備考は四七年総集（）内は前との差）

天皇名	皇紀	年代	事	備考
（七〇代）後冷泉	（紀元前660年）一二一九（一〇五九）	九〇〇	康平二年　新方勇は、新方領を率い（千葉氏の余流）源義家に従って前九年の役に戦う。戦功多し。 当時の新方領は、旧新方村・桜井村、大坂村、宿村村 大川戸村　船伏村をふくむ。	昭和四〇年一九六五年を基準年次とする（以下同じ）
（九六代）後醍醐	一九八八（一三三八）	大三九	嘉暦（かりゃく）三年開山覚頂上人　栄広山浄土寺清浮院を建立する。 （同年新方領六ヶ村清浮院領とする）	四七年度から大四四年

同分寺藤九郎、後藤は八条兵衛尉

一方　新方勇は

一山の衆徒、新方鎌代の武士、それに淀江の加勇と共に　永正十八年正月六日　刑部を急襲　互角戦に而刑部の八条勇大僧侶上野介に背後をつかれて苦戦するが、大沢に来ていた安国・浄願二山の衆徒が救援し新方軍は大勝する。

商賈は鎌代の武士の旧領を安堵し功ある者に褒を与えるなど東新方の地は自然栄広山の領地のようになり、人々は六ヶ村の組織というようになる。

北条氏康　栄広山の

由緒を尋ねたずねる。

天文年中（一五三二）北条氏康は武蔵下総を平定するが栄広山の由緒を特に訪ねる。高野これに答える氏康は感承して六ヶ村領地の面倒を与える。

天正十八年秀吉栄広山の由緒を訪ねる。（天正十八年秋九月）

一五九〇年秀吉奥州征伐の途次岩槻に宿り栄広山の由緒をたずねる。高野上人の事跡を調べたが現在知に至ってはすでに一所懸命の土地であるとは認められないとして領地を没収したが、その由緒を残す為六ヶ村の内で十二石を領有すべしとされた。

＊編者　武州刑部郡新方郷門平信吉天文廿二年北条氏邦に属し用土新左衛門と唱える。

嘉永四年川上氏の写本に依る。

「市史へんさん室　本間清利氏」

栄広山浄土寺清浄院一山歴史年表

（上の年次は昭和四〇年基準算出考は現年数算（）内は前との差）

天皇名	皇紀	年前	記事	備考
（七〇代）後冷泉	（紀元前）一七一九（一〇五九）	九〇〇	康平二年　新方郷領は、新方郷を率い（千葉氏の余流）源頼家に従って前九年の役に戦う。戦功多し。 当時の新方領は、旧新方村・桜井村、大岩村、酒林村 大川戸村　稲荷村をふくむ。	昭和四〇年一九六五年を基準年次とする（以下同じ）
（九六代）後醍醐	一九八八（一三三八）	大三九	嘉暦（かりゃく）三年岡山覚真上人　栄広山浄土寺高野原を建立する。 （同年新方郷六ヶ村清浄郷領とする）	四七年度から五四年度

	基	移清家とし、寶眞上人の身分に関しては不詳）			
嚴小松（九九代）	二、〇四七（一、三八七）	五八〇	嘉慶元丁卯七月廿八日　新方領主清淨院刑山寶眞上人歿定（公元一七九六）	（六〇年後）五八五年前	
（一〇一代）泰光	二〇五五（一、六九五）	五七〇	應永二年甲午春・諸衆陣新方領地頭職　向城城主新方玄藩兄弟基清淨院刑山寶眞上人に帰依し、その意を慕い、清淨院佛堂坊を造営完了する。	（十年後）五七七年前	
（一〇四代）穂柏原	二一六一（一、六〇三）	四六四	大德三年甲子正月　八条地区・平世茂の兵乱千新方城を攻む　吉城政賀の後援する。	（二六年後）四六九年前	
（一〇四代）表柏原	二、二六四	四六一	清淨院第十一代　文巻上人夢窠として新方弥基五代）八条地区平定、八条地区に一寺を建立する。	（三二年後）四六八年前	
（一〇六代）正親町	二、二二八（一、五六八）	四〇七	永禄十年末・清淨院第九代一番目慈上人徒弟心運社三巻相貴代　仏光山無量院刑山・第一〇代代後陽成天皇、慶長二三四七年・三八四年前　天正二年甲戌八月二十二日示寂　開基一無量院は清淨院直轄の末　小諸城寺とす。	（五四年後）三六四年前	
（一〇七代）後陽成	二、二四七（一、五八七）	三八四	天正戊之年　清淨院中興文巻上人徒弟慶巻源応和尚太子山聖恵寺の山号を文巻上人より賜わり刑山す。第一〇八代後水尾天皇、慶紀二二七二年三五三年前慶長二年春の年號化酉後清淨院直轄の小諸城とする。	（二三年後）三九五年前	
全	二、二三五〇	三七五	天正十八年慶寶歌九月・新方領主　遠藤清吉の家長征伐に従がう。	（九年後）三八二年前	

天皇名	年紀	昭和四〇年度準年前の年数	記事	備考
後陽成（一〇七代）	二、二四七（一、五七三）	三八四	天正元西年　清浄院十代文善上人後誕正善健矢和尚　法王山浄泉寺を開山する。（大影祖）第一〇七代後陽成天皇の二二五二年で三七三年前歴史、鎌倉清浄院直系の小諸浄寺とする。	紀元二千二百年三九一年前
後水尾	二、二七二（一、五九七）	三五三	慶長二年申天　清浄院十一代頂善上人後誕　光善寺正和尚　船渡弘福山龍正寺を開山する。鎌倉　清浄院直系の小諸浄寺とする。皇紀二二七五年三五〇年前歴史	三六〇年前
後陽成（一〇七代）	二、二五二（一、五九三）	三七三	文禄元年辰之年　清浄院第十一代頂善上人後誕　光善寺善悦和尚、善恵山延徳寺の山号を賜い開山する。鎌倉清浄院直系の寺とする。第一一一代後西天皇、皇紀二三二一年三〇九年前　慶文元年十二月四日開山	三八〇年前
後光明（一〇八代）	二、三〇八（一六四八）	三一七	慶安元戊子天九月十八日　寺院二五〇石の他に御朱印十三石頂戴　新方城主清浄院第十代頂宣法文善上人代飯沼弘経寺七世名誉社免善上人代	三二四年前
明治（一〇九代）	二、五三三	九二	明治六年地租改正により一八六町歩減、明治十年十一月不審火により清浄院焼失、明治十二年四月再建、飯沼善恵五	九九年前
昭和（一一〇代）			昭和二二年農地法により十町歩開放　昭和三年新憲法宗教法人に登記、昭和四八年三月十七日第十六世宗道社正信正善上人初慈岡良亮氏和尚　宗教法人を設立　四〇年五月八日上人の遷座建立す。	